

シリーズ「我が国を襲った大災害」

誌名	水利科学
ISSN	00394858
著者	渡邊, 悟
巻/号	327号
掲載ページ	p. 81-96
発行年月	2012年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



シリーズ「我が国を襲った大災害」
明治29年大水害——気象観測体制と都道府県別被害——（Ⅱ）

渡 邊 悟

目 次

- 1 はじめに
- 2 明治中期の官制（森林，河川，砂防）
 - (1) 明治中期の官制
 - (2) 明治初期の森林をめぐる情勢
- 3 明治29年当時の気象観測体制と気象観測結果
 - (1) 測候所の配置
 - (2) 台風の呼び名
 - (3) 観測結果
- 4 災害の概況
 - (1) 全国の被害の概況
 - (2) 都道府県別，船舶，建物，耕地，道路，橋梁等の被害の状況

（以上 No. 323に掲載）
- 5 被災各地の状況
 - (1) 新潟県の明治29年大洪水
 - (2) 岐阜県の明治29年大洪水
 - (3) 滋賀県の明治29年大洪水
 - (4) 福井県の明治29年大洪水

（以下次号以降に掲載）

 - (5) 東京都の明治29年大洪水
 - (6) 山梨県の明治29年大洪水
- 6 明治29年災害がその後の防災施策に及ぼした影響
- 7 おわりに

5 被災各地の状況

明治29年大水害の被害は、47都道府県全てに及んだわけであるが、ここでは、比較的まとまった報告を見つけることが出来た新潟県、岐阜県、滋賀県、福井県、東京都、山梨県について被災地の状況を取りまとめた。

このほかにも各地の郷土史などに明治29年水害に関する記述や水害の記念碑が残されていることが判った。しかしながら、今回はそれらの全てを発掘してまとめることが出来なかった。

(1) 新潟県の明治29年大洪水

ア 新潟、長野測候所の7月降水量

明治29年は天候が不順な年であった。7月7日には新潟で70.9mm、長野で20.0mmの降雨が観測されている。新潟県内に局所的な豪雨があったと思われるが、新潟市内の1箇所の測候所の記録だけでは、降雨の様子が明らかではない。

7月20日から22日にかけて3日間に、新潟では95.4mm、長野では173.5mmの降雨があった。

イ 県内各河川の破堤

「新潟県史通史編7近代二」(昭和53年3月31日発行)によれば、7月上旬から河川の水位が上がり、連日連夜、堤防の嵩上げや補強が行われていた。しかし、7月8日の加治川や阿賀野川左支川・早出川で破堤し、翌9日には粟ノ木川が越流氾濫を始めたため、中蒲原郡沼垂町(現、新潟市)一帯では床上浸水46戸の被害を出した。その後、小康状態であったが、19、20日の両日から豪雨が続き、21日に新潟測候所は信濃川からの浸水は免れないことを発表した。

この頃、信濃川の小千谷地点では水位が5mを超え、中魚沼郡宮野原村(現、津南町)では信州一帯の豪雨が集まり、10m余の水位を記録した。

21日には、中蒲原郡大郷村(現、新潟市の旧白根市)で破堤し、古志郡長岡町(現長岡市)、三島郡与板町(現、長岡市の旧与板町)などでも破堤が続いた。また、信濃川右支川の暴れ川である刈谷田川、五十嵐川でも数ヶ所で決壊した。翌22日には、ついに、西蒲原郡横田村(現、燕市の旧分水町)で破堤し(横田の被害が最も大きかったため、ここの地名から、この時の新潟の洪水を

表6 新潟，長野測候所の7月降水量

7月	新潟	長野	7月	新潟	長野	7月	新潟	長野
1日	18.9	8.8	11日	0.4	—	21日	63.2	108.2
2日	1.9	0.1	12日	—	—	22日	3.4	34.8
3日	—	2.3	13日	0.0	—	23日	—	—
4日	0.5	2.6	14日	2.5	0.4	24日	—	—
5日	0.0	—	15日	2.6	27.9	25日	0.0	—
6日	3.8	9.4	16日	0.1	—	26日	—	—
7日	70.9	20.0	17日	0.0	—	27日	—	—
8日	7.9	5.9	18日	3.6	9.4	28日	0.0	—
9日	1.2	—	19日	0.5	—	29日	7.1	—
10日	1.0	1.2	20日	28.8	30.5	30日	0.6	0.0
						31日	10.4	17.3
7月合計							229.3	278.8

出展：「明治29年中央気象台月報」

表7 新潟，長野測候所の8月降水量

8月	新潟	長野
16日	—	5.4
17日	—	2.3
18日	11.8	—
19日	0.0	—
20日	0.0	0.1
28日	16.9	0.0
29日	2.0	—
30日	2.2	11.2
31日	0.5	1.8
上記小計	33.4	20.8
8月合計	94.8	53.4

出展：「明治29年中央気象台月報」

表8 新潟，長野測候所の9月降水量

9月	新潟	長野
3日	0.0	—
4日	0.8	1.0
5日	4.4	1.4
6日	9.3	3.3
7日	9.8	12.3
8日	42.6	50.6
9日	10.0	13.7
10日	14.3	5.9
11日	1.8	2.2
12日	8.0	5.0
上記小計	101.0	95.4
9月合計	133.1	109.3

出展：「明治29年中央気象台月報」



写真2 明治29年信濃川洪水横田村（現：燕市横田地区）近辺の田畑荒廢の状況（出水後21日）（土木学会図書館所蔵）

総称して、いわゆる「横田切れ」と呼ばれている。）、23日には小阿賀野川右岸の木津村（現、新潟市旧横越村）が破堤した。

横田から西蒲原に流れ込んだ洪水は、家屋や耕地を押し流しながら西川に沿って進み、約50km下流の平島村（現、新潟市）の国道を破壊して信濃川と合流した。新潟市でも22日夜には信濃川の水位が11尺8寸（3 m50cm余）に達し、市内の8割が浸水したという。

また、与板市では原地区の20間を超えて破堤し、長岡では長生橋が落ち、鉄橋・道路が寸断、電信も不通となった。

洪水は、信濃川、阿賀野川、関川、保倉川、渋海川など県内各地の河川で出水し、破堤被害は県下全域におよんだ。被害が大きかったのは、信濃川沿岸の西蒲原、南蒲原、中蒲原、三島、古志、北魚沼などの諸郡であり、なかでも中、西蒲原郡が最大であった。

「新潟市史通史編3近代上」（平成8年3月22日発行）によると、当時、河川に囲まれた低地帯では、耕地・家屋を守るため郷内に幾重にも堤防が築かれていた。河川の堤防が決潰し、堤防の内側が浸水すると、郷内の上流側から流れ込んでたまった水を排除するため下流側の堤防を切る必要がある。しかし、下流の村々は、堤防が切られると、自分たちの村へ水が流れ込んでくるため、洪水のたまった水の排除をめぐる争いが起きている。7月25日から亀田郷（現、

新潟市の旧新潟市南東部とこれに隣接する旧亀田町と旧横越町を包含する地区)では、上郷にたまった水を落とすため、7月23日に積んだ土俵の排除をめぐって、上郷4か村の1000人余と下郷1000人余との間で、古刀や鉄棒などを持ってにらみ合いが続き警官や憲兵が説得したが、夜になってもかがり火をたいて向き合い、翌日、郡長と県警務課長が調停に出張し、ようやく土俵を除き、水を落とすことで決着した。

なお、翌年には、新潟県内2か所で洪水の排水に関する争いで、7月13日に重傷1名、軽傷7名、8月9日には死者1名、けが4、5名の新聞記事もある。

現在のような、ポンプによる排水手段がなかった当時は、短期間で排水することが困難であった。

「土木学会図書館旧蔵写真館 明治29年信濃川大洪水」によると、最大の被害を出した横田村では、ようやく8月末に仮締切が報じられたが、9月8日には信濃川の再度の出水のため再び破堤した。また、10月14日には出水によって3度破堤し、横田村を始めとする西蒲原郡は再三泥水を冠した。このように、新潟県においては、明治29年の洪水は100日以上の浸水を被らせる地域を生じさせたのである。

この大洪水による新潟県の被害は、新潟新聞（明治29年8月21日）によると、死者48名、「日本帝國統計年鑑17」（編集：内閣統計局）によると、損失価格9,360,251円、再築費1,062,534円合計で10,422,785円という膨大なものであった。

新潟県燕市にある信濃川大河津資料館には、「横田切れ」の展示があり、横田堤防には、横田破堤記念碑が建てられている。

(2) 岐阜県の明治29年大洪水

ア 岐阜測候所の降水量

岐阜県における明治29年の水害は、大垣を中心とした輪中地域における最大の水害だったと言われている。この年の岐阜測候所観測の年間降水量は、3,448.9mmと通常の年（近年の過去30年間平均1,900mm/年）に比べ1.8倍の量であり、この記録は今も破られていない。

なかでも、7月には744.2mm、8月に142.6mm、9月には1,055.8mmと著しく多かった（「中央気象年報」明治29年）。

7月20日には257.2mm、同21日には132.4mm、22日には38.2mmの降水が

表9 岐阜測候所の明治29年月別降水量 (単位: mm)

明治29年 (月別)	降水量 (mm)	累計降水量 (mm)	明治29年 (月別)	降水量 (mm)	累計降水量 (mm)
1月	63.8	63.8	7月	744.2	1,804.2
2月	89.2	153.0	8月	142.6	1,946.8
3月	109.8	262.8	9月	1,055.8	3,002.6
4月	289.9	552.7	10月	192.0	3,194.6
5月	161.4	714.1	11月	188.0	3,382.6
6月	345.9	1,060.0	12月	66.3	3,448.9

出典:「中央気象年報」明治29年

表10 岐阜測候所の明治29年7月降水量 (単位: mm)

7月	降水量	7月	降水量	7月	降水量
1日	23.6	11日	—	21日	132.4
2日	2.8	12日	—	22日	38.2
3日	31.6	13日	—	23日	0.0
4日	0.1	14日	9.7	24日	—
5日	—	15日	48.5	25日	—
6日	91.0	16日	—	26日	—
7日	12.1	17日	0.0	27日	—
8日	5.2	18日	33.3	28日	0.2
9日	0.3	19日	0.0	29日	0.1
10日	0.0	20日	257.2	30日	0.0
				31日	57.9
7月降水量					744.2

出展:「明治29年中央気象台月報」

あり、この雨で各河川は増水して、7月21日に揖斐川にて今福が破堤し、続いて水門川など46か所で破堤して大水害となった。

この災害復旧中の9月6日にまた大風(現在の台風)が襲来して暴風雨となり、各河川で破堤して大水害となり、北は不破郡赤坂町より南方遙かに三重県桑名市に至るまで一面の大湖と化した。

このときの降水量は岐阜測候所観測の観測記録によると、9月4日が20.1mm、5日が14.2mm、6日が118.1mm、7日が242.1mm、8日が203.9mm、

表11 岐阜測候所の明治
29年9月降水量（単位：mm）

9月	降水量
3日	—
4日	20.1
5日	14.2
6日	118.1
7日	242.1
8日	203.9
9日	199.4
10日	105.1
11日	62.0
12日	48.1
上記合計雨量	1013.0
9月合計	1055.8

出展：「明治29年中央気
象台月報」

9日199.4mm、10日105.1mm、11日62.0mm、12日48.1mmとあり、この9日間に1,013.0mmの降雨があった。

9月の大垣の浸水は7月より1メートルも高く、大垣市内の約80パーセントの家々が屋根まで達する軒上浸水となった。

イ 岐阜県の水害

この大洪水による岐阜県の被害は、死者207名（7月49名、9月158名）、損失価格15,603,561円、再築費2,135,815円合計で17,739,376円という膨大なものであった（「日本帝国統計年鑑17」 編集：内閣統計局）。

「大垣市史 資料編 近代」（平成21年3月25日発行）によれば、明治29年洪水について岐阜日日新聞明治29年7月25日に特派員村岡からの電報を掲載しており、23日発の大垣特報の主要部分を抜粋すれば、「廿一日午後六時一升三合の水にて堤防百三十余間崩壊し、同所より押上る水、水上へ逆流し来れるものなり」、「大垣輪中一般浸水の程度は、二階なき家は屋根上に達したり、輪中の人民は皆堤上に塵集避難せり」、「大垣旧城郭内の高地に非難し救助を受け居るもの無慮千四百余人、旧城郭内に於いて炊出を為し舟にて分配し居れり」、「今

回の水量は去る廿六年の洪水よりも確か二尺程高く、逆水の事とて容易に減水せず」とある。

また、7月28日に掲載された西濃水害地巡視と題する記事を抜粋すれば、「西南濃数郡は茫々たる大湖中に森影孤村の散在するのみ」とあり、「(特派員は) 渥見郡鏡嶋村字湊より舟を雇ふて河渡の切所を越へ、五六輪中へ乗出し伏越の噴壤、只越・穂積の切所を瞥見し、牛牧・宝江を過ぎ、驅て揖斐川鉄橋の許に着し、余は一本の丸太を攀て鉄橋に登り、之を越えて再び舟を雇ひ、大垣に向ひたり」、「余は先ず警察署に舟を漕ぎ付け、署長に被害の概況を聴き自己の実見とを合わせて、直ちに本社へ通電せり」、「当路者の処置を賞賛す可き一事は、人命救助と救助米分与の敏捷なりし事是なり、堤防決潰の警報と同時に、警官は十余艘の船を擬装して人命の救助に着手し、危険を冒して救助したる人員は七百余名に及べり、……斯る次第なれば死亡者僅に二三名に過ぎざりし」、又同時に郡役所に於いても、……昼夜兼行を以て人を大阪に派し、取敢ず白米五百俵を買収せしめたるを以て、郡吏員一同は舟にて各町村に分配し、越えて廿五日の朝までには第一回の分配を完結したりという」とある。

更に、岐阜日日新聞明治29年9月15日の大垣輪中再決潰の水害実況視察概報を掲載しており、「大垣輪中の切入は九月八日午前五時頃、杭瀬川の東岸の堤防青柳村の地内にて、七八十間宛二箇所決潰し、濁流逆巻て押入たれば、兼て警戒怠らざる同町民は、二階上がりの準備を為しつゝある間に八日も早暮れたり、同夜より翌九日へかけて非常の速度を以て水量を増し、同夜既に市中の七八分檐を浸し、其翌十日に至り、例に依り其筋に協議の上、金森吉次郎等数名激浪に舟を進めて、横曾根村の堤防字権現下に於て、乙濞凡四十間程切割りたり、此時堤防の内外余程の高低ありて、浸水の流出をみしも、輪中の流出を見しも、天尚ほ雨ふり、切所の押入り甚だしきより、輪中の浸水度を高め十一日午前十時頃に至りて始めて減水に赴きたり、其最高度を以て本年七月の入水に比較すれば、凡四尺余深く、旧大垣城天守閣の下にある料理店吉岡楼玄閣の式台上に浸水し、料理場の如きは殆ど二尺余の深さに及びたれば、市中九分九厘迄は軒を浸し、七八分は二階へ浸水し、低地にある家屋は屋根を没して見るを得ず、……郡役所、警察署、町役場は例により吉岡楼に移り、被害の難民は天守閣及び高地にある学校の楼上に難を避けしめたり」とある。



写真3 大垣城の天守閣石垣の大洪水の水位線と記念石柱

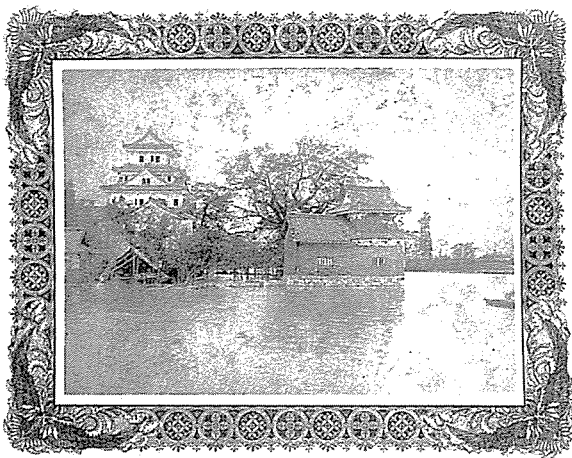


写真4 水害の大垣城天守閣遠望写真
(大垣の町は一面水に浸かり、大垣城天守閣は避難民でいっぱいになった。)



写真5 大垣市多芸島町杭瀬川堤防の決潰守護神の碑
(後ろの建物は多芸島水防倉庫)

大垣城の天守台石垣の北西隅には、明治29年の大洪水の浸水位を示す碑があり、また、天守閣の石垣にも大洪水の水位の線が示されている。

岐阜県大垣市多芸島町^{くいせがわ}杭瀬川の左岸堤防上には、多芸島水防倉庫の前に決潰守護神の碑が建てられ、毎年決潰した日に神事が執り行われているとのことである。

その碑文には、「明治廿九年九月濃尾地方を襲ひたる連日の豪雨のため各河川の増水頓に加はり揖斐川の逆水は汎濫して安八郡下宮村より神戸町に入り之に伴ひて杭瀬牧田の両川も亦汎濫し西は宮代山麓に至るまで泥海となりしも大垣輪中堤のみ辛うじて決潰を免れたり然るに九月八日午前六時多芸島町浄土寺内百二十間の堤防遂に大音響と共に決潰し一瞬にして数戸の家を呑む次いで綾里輪中堤杭瀬川に決潰して輪中内に濁水奔流し北は不破郡赤坂町より南方遙かに三重縣桑名市に至るまで一面の大湖と化せり而もかゝる大洪水の中に暴風雨に襲はれ倒壊家屋續出して人畜の死傷其の数を知らず多芸島地内に於ける田畑の荒廢五十餘町歩に達し三町歩餘は水田流失して池となり惨禍言語に絶するものありき今尚大垣城趾の礎石に標示されたる水位を見れば當時の水禍を憶ふに足る茲に永く水難の繰りかへされざらんことを祈りて恭しく守護神を勧請し奉る所以なり

昭和三十年二月 發起者 多芸島町 後援 校下一同
と生々しい状況が記されている（水害と「見舞い」行為—近世期木曾三川輪中の事例を通して、下本英津子）。

(3) 滋賀県の明治29年大洪水

ア 彦根測候所の降水量

明治29年は、非常に雨の多い年であり、1月から8月までに1,637mmと平年の1年分（1971年から2000年30年間の平均年降水量1617.9mm）に相当する雨が降っていた。

特に、7月には、501.6mm、9月には1,018.8mmの降水があった。なかでも、9月の4日から12日の9日間の合計雨量は、1,007.7mmであった。

「滋賀懸史第4巻（最近世）」（昭和3年3月25日発行）第五編第二章第十一節第三項には、明治29年の大水害として「明治29年7月10日より暴風雨のため出水、下旬に至って益甚しく9月12日湖水増加最高度に達し13日始めて晴れて漸次減水、11月末に及んで常水位に復した。」として、両陛下より救恤金の下賜並びに被害の実況とその郡別統計を表にして伝えている。

この年の7月、8月、9月の彦根測候所で観測された降水量の概要は、表のとおりである。

イ 滋賀県の水害

「滋賀県災害誌」によれば、琵琶湖の水位は、8月30日時点では、プラス1.42mと常推移を60cm上回る状態であった。これに低気圧の通過、寒冷前線の停滞により滋賀県を中心に長期間の降雨と南方海上の台風の影響による7日からの豪雨更に台風の近畿地方への上陸により琵琶湖の水位は急上昇し、琵琶湖周辺の稲田はすべて湖水となり、村落は水没した。この洪水による滋賀県内

表12 彦根測候所の明治29年月別降水量

明治29年 (月別)	降水量 (mm)	累計降水量 (mm)	明治29年 (月別)	降水量 (mm)	累計降水量 (mm)
1月	106.6	106.6	7月	501.6	1357.2
2月	126.9	233.5	8月	279.1	1636.3
3月	74.5	308.0	9月	1018.8	2655.1
4月	230.5	538.5	10月	170.0	2825.1
5月	86.0	624.5	11月	146.5	2971.6
6月	231.1	855.6	12月	93.9	3065.5

出展：「明治29年中央気象台月報」

表13 彦根測候所の明治29年7月降水量（単位：mm）

7月	降水量	7月	降水量	7月	降水量
1日	10.6	11日	—	21日	95.6
2日	3.2	12日	—	22日	1.8
3日	25.8	13日	0.0	23日	0.0
4日	0.0	14日	1.2	24日	—
5日	—	15日	83.4	25日	—
6日	72.8	16日	—	26日	—
7日	40.8	17日	13.2	27日	0.0
8日	4.9	18日	7.6	28日	—
9日	0.5	19日	0.2	29日	—
10日	3.2	20日	74.4	30日	2.8
				31日	59.6
7月降水量計					501.6

出展：「明治29年中央气象台月報」

表14 彦根測候所の明治29年8月降水量（単位：mm）

8月	降水量
16日	0.0
17日	44.7
18日	11.7
19日	0.0
20日	0.2
28日	1.1
29日	—
30日	109.6
31日	46.4
上記小計	213.7
8月の降水量	279.1

出展：「明治29年中央气象台月報」

表15 彦根測候所の明治29年9月降水量（単位：mm）

9月	降水量
3日	0.0
4日	10.3
5日	3.8
6日	22.6
7日	596.9
8日	161.9
9日	81.2
10日	107.2
11日	3.5
12日	20.3
上記小計	1,007.7
9月の降水量	1,018.8

出展：「明治29年中央气象台月報」

の被害は死者29人、行方不明5人、流出家屋1,749棟、半壊家屋6,136棟、破損家屋26,365棟、浸水家屋（床上、床下）58,391棟、浸水田約30万反となった。7日は1日で597mmという大豪雨で琵琶湖の水位がプラス3.76mまで急上昇し、周辺地域は237日もの長期にわたる被害という大洪水をもたらした。

大洪水を後世に語り継ぐため、石標や痕跡が今も各地に残されている。

彦根市甲崎町妙光寺 水位石碑、
彦根市上岡部町正徳寺 水位石碑、
大津市下坂本酒井神社 水位石碑、
野洲市吉川 水災水位碑、
大津市瀬田西光寺 水位石碑

「新修彦根市史」第3巻通史編近代の第3章第1節において、日出新聞社の記事からとして、水害を次のとおり伝えている。「明治29年は7月19日ごろから降雨が続き、被害が出始め8月31日には台風によって犬上郡で578戸が全壊、6名の死者を出した。さらに、9月7日から10日にかけての豪雨は500年に一度と言われる激しさで、彦根町における7日午前6時からの24時間雨量は685mmに達し、全国最大を記録した。犬上郡での死者は3名、床上床下浸水は、彦根市870戸、磯田村856戸、南青柳村129戸、日夏村296戸、松原村274戸、北青柳村205戸、青波村493戸などに及んだ。また、坂田郡鳥居本村での山崩れは100ヵ所に達した。」として、炊き出しや施米の実施、また犬上川、芹川の堤防さらには決壊彦根水害救済会の組織などが記されている。

なお、彦根市のホームページには、明治29年の洪水により、彦根城より浸水中の町中を撮影した写真が掲示されている。

(4) 福井県の明治29年大洪水

「九頭竜川流域誌」洪水の歴史第1章洪水災害の歴史（建設省平成12年発行）によると、台風は西日本に上陸し、紀伊半島を縦断して能登付近で日本海に抜けたが、九頭竜川流域では8月30日午後5時頃より西南の風が吹き、10時頃より次第に風雨が強まり、31日午後1時頃猛烈な暴風雨となり、4時頃にはピークに達したが、5時頃には峠を越して沈静していった。雨量は日野川流域で多く、今庄では31日に116mmを記録した。

その後もぐずついた天気が続いた。そのようなとき続いて次に来襲した台風

は、四国の南岸より瀬戸内海に入り、中国地方を縦断して日本海に抜ける経路をとり、台風の影響を受けて9月6日の夜半より豪雨となり、7日も雨が降り続いた。このため、九頭竜川流域の各河川が急激に増水した。

8日は台風の通過に伴い一層風雨が強まり、日野川流域の今庄で294mm、足羽川流域の福井で181mm、九頭竜川本川流域の大野で167mmを記録した。そのため、各河川の水位はさらに上昇し、各所で越水や破堤を起こして氾濫した。福井市では床上6尺(1.8m)以上、地区によっては軒まで濁水が達し、約1,300人余りが避難した。

特に、南条・坂井・今立・吉田の4郡の被害が大きかった。また、稲が開花中であり農家の被害は甚大であった。

「九頭竜川流域誌」3.3洪水年表によれば、明治29年洪水について、8月30日以来雨が降り続き、9月7日の明け方より九頭竜川本川、日野川、足羽川の3河川ならびにその他の河川で急激に増水し、溢水、決壊、氾濫した。稲の開花中で農家の被害は多大。福井市は濁水に埋まり、浸水位は床上6尺以上となった。

被害は死傷者96人、流失・全壊家屋1,197戸、浸水家屋47,796戸、堤防決壊35,942間、堤防破損70,930間、田畑・宅地等浸水面積29,883町歩。

・量水標最高水位

九頭竜川本川 吉田郡森田村稲田 17.5尺(約5.30m)

河合村中角 24.7尺(約7.48m)

日野川 丹生郡麻生津村三尾野 23.7尺(約7.18m)

足羽川 福井市佐佳枝上町 13.2尺(約4.00m)

・総雨量

九頭竜川 大野町 557mm(8月30日～9月11日)

日野川 今庄 656mm(8月30日～9月11日)

足羽川 福井市 434mm(8月30日～9月11日)

「福井県史」(通史編5 近現代)第二章第一節第二第65表には、明治28・29・32年の大水害について記録がある。福井県下は、明治28、29の両年、豪雨による大水害に見舞われ、大きな被害をこうむった。

なお、福井県には、明治29年に、まだ、気象庁の測候所が設置されていなかったが、30、31年にも豪雨があり、31年1月には福井市日ノ出下町の福井測候所が観測を開始している。

明治29年水害については、「翌二十九年も六月末から九月にかけて、豪雨や台風があいついで襲来し、前年を上回る被害に見舞われた。なかでも八月末から九月上旬の豪雨は大洪水をもたらした。『明治二十九年八月三十一日九月七日福井県暴風雨水害景況』には、その様子がつぎのように記録されている。「八月三十日朝来陰鬱時々細雨アリ……午後五時ヨリ西南ノ風起リ同十時ヨリ漸次強風激雨トナリ、翌三十一日午前一時ニ至リ風ハ倍々暴烈ニ吹き荒ミ雨ハ車軸ヲ乱スカ如ク、続キテ四時前後ハ殆ント其激烈ノ極度ニ達シ……殊ニ若狭国遠敷郡大飯郡三方郡ニ在テハ河川ノ水量一時ニ暴漲シ一大水害ヲ波及ソノ後モ陰晴定マリナク九月五日以來降雨連日ニ弥リ、而カモ六日ノ夜半ヨリ強雨豪注七日ニ至ルモ更ニ歇マス、同日黎明ヨリ足羽、日野、九頭竜ノ三大河川及ヒ其ノ他ノ河川大ニ増水シ、其出水ノ急遽ニシテ流勢ノ猛烈ナル忽焉トシテ岸ヲ噛ミ、激湍狂騰堤塘ヲ越ヘ或ハ欠壞田圃道路ニ暴漲シ人家ニ汎濫シ」とあり、建造物、田畑、交通施設などの被害は県下全域の一市一郡一五三町村一七一七大字に及んだ。八月三十一日の水害は、大飯、遠敷の両郡に、九月七日は、足羽、坂井、今立、南条の各郡に大被害をもたらした。福井市では、夜半に市東端の中島堤防が決壊、市域のほとんどが浸水し、浸水家屋は八六九一戸に達した。死者・行方不明者は、八月三十一日の暴風雨は遠敷郡が一人、九月七日の分は今立郡が二五人、建造物の流失・全壊・埋没は、八月三十一日は大飯郡が一五四戸、九月七日は今立郡が三四九戸、道路の決壊・破損は、八月三十一日は大飯郡が五三八か所・一万六五八一間、九月七日は南条郡が五二〇か所・六万八三八七間、橋梁の流失は、八月三十一日は遠敷郡が五九五か所・一六一一間余、九月七日は南条郡が一七六か所・二九〇一間、田の損害は、八月三十一日は坂井郡が二万八六九六石、九月七日は坂井郡が九万一八七二石、畑の損害は、八月三十一日は大野郡が三三九五石・一万六三〇二貫、九月七日は今立郡が三二八三石・九万四六七九貫で、それぞれ第一を占めている。被害総額は前年を上回る一〇八二万三三〇五円にのぼった。」とある。

なお、「福井県暴風雨水害景況」には水害略図が付いているが、「図説福井県史」近代10 九頭竜川の改修工事（2）ではこの図の浸水地域が黄色に着色されており判り易い。

参考文献

「日本帝国統計年鑑17」編集：内閣統計局 2001年4月25日復刻版発行 復刻原本：総

務省統計図書館

「新潟県史通史編 7 近代二」編集新潟県 昭和53年 3月31日発行

「新潟市史通史編 3 近代上」編集新潟市史編さん近代史部会 平成 8年 3月22日発行

「土木学会図書館旧蔵写真館」収蔵写真画像 富士川流域・山梨県下の水害, 明治29年
信濃川大洪水

新潟新聞 (明治29年 8月21日)

「大垣市史 資料編 近代」大垣市編集 平成21年 3月25日発行

水害と「見舞い」行為—近世期木曾三川輪中の事例を通して, 下本英津子 名古屋大学
大学院文学研究科教育研究推進室年報 Vol. 3

「滋賀懸史第 4 卷 (最近世)」第五編第二章第十一節第三項 昭和 3年 3月25日発行

「滋賀県災害誌」滋賀県著 彦根地方気象台編集 昭和41年 3月発行

「新修彦根市史」第 3 卷通史編近代の第 3 章第 1 節 彦根市史編集委員会編集 平成21
年 1月発行

「九頭竜川流域誌」洪水の歴史第 1 章洪水災害の歴史 建設省 九頭竜川流域誌編集委
員会編集 平成12年発行

「福井県史」(通史編 5 近現代) 福井県編集 1994年発行

「福井県暴風水害景況」(明治29年 8月31日明治29年 9月 7日) 福井県 明治29年発行

「図説福井県史」近代10 九頭竜川の改修工事 (2) 福井県 平成10年 2月発行

(原稿受付2011年 6月 7日, 原稿受理2011年 8月22日)